

病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病 ハダニ類 ウラナミシジミ	やや多 並 並 並 多	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 やや多 やや少
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 並 やや少 やや少	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや少 少
			果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間10月22日～11月21日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

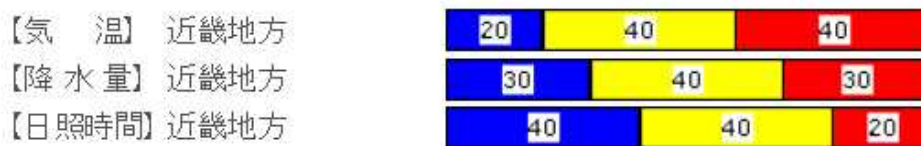
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、低い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
11月	和歌山 13.5	和歌山 90.5
	潮岬 15.3	潮岬 160.2

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は36%（平成4%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは発病抑制効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は14%（平成31%）、発生株率は13.6%（平成11.2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の被害発生ほ場率は83%（平成46

%)、被害株率は45.0% (平年14.2%)であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。

② 防除効果が高い若齢幼虫を対象に7～10日間隔で防除を行う。

③ 平成28年度病害虫発生予察注意報第2号(10月24日発表)を参照する。

<ハクサイ、キャベツ>

1. 黒斑細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0% (ハクサイ：平年8%、キャベツ：過去7年の平均9%)であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率25%、発生株率3.2%)であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は90% (平年34%)、発生株率は15.5% (平年6.2%)であった。

② 黄色水盤(紀の川市)への10月1～20日の飛来数は、39頭(平年35.5頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 葉液が株元の葉裏にかかるように丁寧に散布する。

3. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は10% (平年5%)、発生密度は10株あたり0.1頭(平年0.8頭)であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市7頭(過去5年の平均48.8頭)、紀の川市0頭(平年0.6頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

4. ヨトウガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率11%、発生株率1.1%)であった。

② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市3頭(平年5.3頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は14%（平成23%）、発生株率は1.4%（平成3.3%）であった。
- ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市9頭（平成7.2頭）、御坊市277頭（平成22.6頭）、印南町21頭（平成30.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中・老齢幼虫に対する防除効果は低いので、ふ化幼虫の集団が分散するまでの若齢幼虫期に防除するよう努める。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は10%（平成26%）、発生株率0.5%（平成4.4%）であった。20株あたり卵塊数は0.8（前年0.3）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は36%（平成35%）、発生株率は5.7%（平成7.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市3,824頭（過去5年の平均1,236.6頭）、紀の川市3,368頭（平成714.5頭）、御坊市4,787頭（平成1,417.7頭）、印南町2,169頭（平成360.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率36%、発生株率6.8%）であった。
- ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市12頭（平成24.2頭）、御坊市66頭（平成47.9頭）、印南町4頭（平成12.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中・老齢幼虫に対する防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生園率は12%（平成23%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
- ② 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。
- ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 10月中旬の発生園率は2%（平成15%）、発生葉率は0.1%（平成4.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用時期に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行なう品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における10月中旬のカキの被害果率は「富有」で2.1%（平成11.2%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ9頭（平成4.1頭）、ツヤアオカメムシ65頭（平成24.8頭）であった。

③ 有田川町奥の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ9頭（前年0頭）、ツヤアオカメムシ30頭（前年2頭）であった。

④ みなべ町東本庄の予察灯による10月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ6頭（過去6年の平均34.5頭）、ツヤアオカメムシ149頭（同639.3頭）であった。

⑤ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 園内外のカメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。

② 飛来がみられる園で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用時期に特に留意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780